

令和7年度 普及指導活動の外部評価会 結果

福岡県農林水産部経営技術支援課

令和8年2月12日に8名の外部評価者による外部評価を実施し、協同農業普及事業及び普及活動の実施状況について、評価・意見・提案を受けた。

1. 協同農業普及事業について

経営技術支援課より、本県の普及指導センターの設置状況、普及指導員の配置状況、普及指導員の資質向上への取組、令和7年度の全普及指導センターの普及活動課題設定状況について説明を行った。

項目	評価・意見・提案
普及指導センターの設置	・厳しさを増す予算等の資源制約の中で、最大限尽力されており、地域に合わせた組織体制が大変評価できる。
普及指導員・専門技術指導員 (革新支援専門員)の配置	・地域の農を支える普及指導員の重要性がよく分かった。今後も手厚く配置されることを望む。
普及指導員の 資質向上の取組	・経験の浅い普及指導員にトレーナーを配置しているとのことだが、自分より知識があつてほしいとの声もあつているため、基礎研修も必要だと考える。
普及活動課題	・農家も不足しているが、指導員も今後ますます減少が懸念される。専門性を失うことなくご指導いただきたい。

2. 普及指導センターの取組について

令和7年度は、北筑前、久留米、飯塚の3普及指導センターを外部評価対象とした。

普及指導センターから、普及指導計画の課題設定の考え方、課題構成や主要な課題の取組と成果について概要を説明し、代表課題として、令和6年度が最終年度となるプロジェクト課題(複数部門担当で取組む課題)について詳細な説明を行った。

(1) 北筑前普及指導センター

○代表課題：むなかた地域における新規就農者の経営確立と持続可能な生産の維持(R5~R7)

(1) 課題・目標

1 新規就農者の経営確立

地域の認定農業者減少が進む中、産地を維持・発展させる上で新規生産者の育成・定着が喫緊の課題である。普及指導センター、市、JA等の関係機関が一体となって新規就農者の育成を図っているものの、就農後の経営状況に個人差が大きく、経営が不安定な新規就農者も存在するため、更なる支援強化が必要である。そこで、各新規就農者が策定した就農計画の達成を支援するとともに、イチゴ生産者に対してはさらに「あまおう」の目標収量をJAむなかたの目標である3,900kg/10aに設定し、重点的な支援を行う。

2 持続可能な生産の維持

当地域の土地利用型農家における生産性の低下の解決策の一つとして、土づくりの重要性が指摘されている。一方、肉用牛の畜産経営体ではふん尿を原料とする堆肥の在庫が年々増大しており、処理に苦慮している。この状況を受け、地域の堆肥の利用・供給体制を構築し、土づくりを実践する農家を増加させることで、持続可能な生産の維持に取り組む。

(2) 活動の内容

1 新規就農者の経営確立

- ・JA、市などの関係機関との情報共有を密に行いながら、サポートチームによる巡回により栽培面や経営面など総合的に支援
- ・営農基礎講座を開催し知識の習得を支援するとともに、新規就農者間の交流を推進
- ・イチゴ生産者に対しては、JA営農指導員と連携した技術支援を行うとともに、熟練生産者として認定された「あまおうの匠」、「果樹の匠」から直接指導を受ける機会を提供することで、一層の技術向上を推進

2 持続可能な生産の維持

- ・関係機関と連携し、堆肥利用希望者と堆肥生産者を結ぶ堆肥利用・供給体制を構築
- ・現地実証に基づく施肥基準を作成し、堆肥を活用した施肥体系を確立することで、堆肥施用による土づくりを推進

(3) 活動の成果

成果の内容及び数値目標	基準年 (R4)	実績 (R5)	実績 (R6)	実績 (R7)
1 新規就農者の経営確立				
新規就農者の新規就農5年目までの就農計画達成割合	92%	83% (10/12戸)	85% (11戸/13戸)	85% (11戸/13戸)
あまおう目標収量(3,900kg/10a)	対象農家数 10戸	1戸	3戸	4戸
2 持続可能な生産の維持				
堆肥生産・供給体制の構築	なし	生産量調査	流通調査	構築
堆肥利用農家数	60戸	24戸	45戸	45戸
堆肥等を活用した施肥基準	6品目	0品目	3品目	6品目

1 新規就農者の経営確立

- ・就農計画の販売金額の達成者の内訳は、米麦生産者1戸、果樹生産者2戸、野菜及びイチゴ生産者7戸。

2 持続可能な生産の維持

- ・堆肥生産者、市役所、農林事務所とともに、堆肥の生産量、供給方法及び供給料金などを協議し、利用者が随時利用できる供給体制を構築できた。

○外部評価者からの評価・意見・提案

項目	評価・意見・提案
課題設定	・認定新規就農者の5年計画達成と、うちイチゴ農家と業者の収量高位化という目標は適切と考えられる。 ・新規就農者は不安が多く、寄り添った支援を望んでいるはず。今回の取り組みはそれに沿った内容となっている。一方で、イチゴだけではなく、他の作物への支援も求めたい。
活動体制	・JAとの連携(市含む)情報共有を図れている。
活動内容	・堆肥農産物PR、損益分岐点をどう考えるかの考察も必要。 ・「匠」から直接指導を受ける機会の設定は貴重、着眼点がいい。「地力の低下」を防ぐ観点から堆肥の利用を進める、というコンセプトもいい。 ・メカ肥育経営を含む肉用牛(十酪農)経営の、地域包括的な資源循環的耕畜連携への進展が期待できると考えられる。
成果	・直販よりも共販へ誘導、作業遅れは自前に訪問指導が必要。

○その他の意見

耕畜連携の整理も必要だと思う。全体的には良く取り組まれている。
今回の取り組み発表対象地にある(一財)むなかた地域農業活性化化機構の存在、及びセンターとの連携体制が大きな強みになっていると受け止められた。
地元の堆肥を利用するのであれば、販売にもブランドとして結び付けても良いのかなと思う。

(2)久留米普及指導センター

○代表課題：「地域ビジョン」に基づく園芸農業担手の強化・育成(R5～R7)

<p>1 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地の維持拡大のためには、既存担手の経営力強化や新たな担手の確保・育成が急務。 雇用労働力の確保も困難となっているため、安定した労働力確保に向けた支援が必要。 <p>2 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域ビジョンに基づく先進的・中核的担手を支援することにより地域への波及効果を狙う。 新規就農者の確保・定着支援により新たな担手の確保を図る。 アルバイトアプリを活用し、労働力を確保する。 																																																				
<p>(2)活動内容</p> <p>1 先進的・中核的担手の強化</p> <p>(1)先進的・中核的担手に対する経営改善支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域での波及効果が大きい先進的担手、今後地域の中心となる中核的担手を選定し、面談で売上げや所得等の目標を設定 定期的に生産および経営状況を把握し、課題解決を支援 <p>(2)安定した労働力の確保</p> <p>①アルバイトアプリ事例調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 「day work」導入農家および被雇用者の双方に聴き取り調査し、問題点や課題を抽出 <p>②アルバイトアプリの活用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例調査を基に、活用のポイントなどを分かり易く示した農家向けのリーフレットを作成 部会等での説明会や個別の推進に使用し、利用者の増加を推進 <p>2 新たな担手の確保・育成</p> <p>(1)新規就農者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 市及びJAと連携し、地域および福岡市での新規就農相談会において、支援内容や管内で就農する利点について説明し、就農へ誘導 <p>(2)新規就農支援連絡会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規就農相談や就農後の面談等を行う中で、担当者の負担が大きいこと、就農後の経営が成り立たない新規就農者が複数いるということが問題となり、受入体制の再整備や情報交換を行う関係機関(JA、市、普及)による定例会議を提案。毎月開催し、新規就農者支援について協議 就農支援体制としては、研修内容の見直しを行った。技術研修においては、関係機関が連携しトレーナー、受講者双方へ研修途中の面談、巡回等の支援を行うよう体制を再整備 <p>(3)新規就農者の定着支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術研修が修了した新規就農者を対象に、技術指導や面談による経営相談を行い、定着を支援 																																																				
<p>(3)活動の成果</p> <p>1 先進的・中核的担手の強化</p> <p>(1)経営改善目標達成経営体数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状(R4)</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>合計</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成経営体数</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)安定した労働力の確保(アルバイトアプリ新規導入者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>現状(R4)</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>合計</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導入経営体数</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 新たな担手の確保・育成</p> <p>(1)新規就農者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>合計</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規就農者数</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)新規就農者の定着</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>合計</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標達成経営体数</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	年度	現状(R4)	R5年度	R6年度	R7年度	合計	目標	達成経営体数	0	4	3	5	12	12	年度	現状(R4)	R5年度	R6年度	R7年度	合計	目標	導入経営体数	-	4	3	7	14	13	年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	目標	新規就農者数	7	3	4	14	13	年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	目標	目標達成経営体数	-	1	3	4	7
年度	現状(R4)	R5年度	R6年度	R7年度	合計	目標																																														
達成経営体数	0	4	3	5	12	12																																														
年度	現状(R4)	R5年度	R6年度	R7年度	合計	目標																																														
導入経営体数	-	4	3	7	14	13																																														
年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	目標																																															
新規就農者数	7	3	4	14	13																																															
年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	目標																																															
目標達成経営体数	-	1	3	4	7																																															

○外部評価者からの評価・意見・提案

項目	評価・意見・提案
課題設定	・担い手、労働力の確保に課題を絞り、その実現に向けた方法を明確にしている。合理的であり、評価できる。
活動体制	・就農相談会等でどんな人材が来られているのか、市、他と連絡・連携して頂きたい。
活動内容	・収量と共に単価を上げて収入を上げていく方向性はとても良い。ブランド商品を更にブランド力UPしていく為の技術指導の継続して頂きたい。 ・バイトアプリの普及に向けたアプローチは具体的に評価できる。新規就農者受入体制の再整備は現状を踏まえた解決策として有効に作用すると思った。 ・データを示しながら支援を実施、結果もしっかり出ているため、近隣農家へも好影響を与えたいと思います。
成果	・バイトアプリのマッチング数が大幅に伸びている点を考えれば、今回のアプローチは他地域にも波及する可能性があった。 ・アルバイトアプリは実用性あり、波及効果は期待できる。若手農家に推進したことが、スムーズに進んだ大きな要因であり、素晴らしい取り組みだった。

○その他の意見

<p>ターゲットとゴールに対して、非常に熱心で効果的な取り組みがなされていると感服した。また、女性普及員がとても生き生きと活躍されている姿を垣間見ることができ、大変心強く感じ入った。</p>
<p>積極的な取り組みが説明から感じられ、新規就農者の入口での整理については、非常に共感が持てた。</p>
<p>農家が減少への対策、ブランディング、JAに管内の良いイメージの農業の発信が必要だと思った。</p>

(3) 販路普及指導センター

○代表課題：多様な販売による生産者の確保及び直轄地域農業の活性化(R5～R7)

(1) 課題・目標

直轄地域では、担い手の高齢化により、JA生産部会員数及び農産物直売所出荷者数、生産量の減少が続いている。そこで、特徴ある商品の育成を通じ、直轄地域農業の活性化を図るため、商標取得やJAアグリセンターの堆肥を活用した新たな栽培体系の普及に取り組む。
また、広報誌による生産者募集、推進品目説明会、新規就農・品目相談等に取り組み、生産部会や直売所の新たな生産者を確保する。併せて、調製場の確保や調製作業が課題となるため、VFの活用を推進する。

(2) 活動内容

1 特産品目等の育成

- 令和5年度に関係機関と連携して、ブランド推進チームを設置
- 地域ブランド化を目指す4品目(宮若うまい米、宮若とうがらし、里山レモン、福岡もものすけ)、新しい栽培体系確立を目指す3品目(酒米の安定生産体系、麦大豆の堆肥利用体系、シャクヤクの堆肥利用体系)を特産品目等の候補として設定
- 検討会、栽培支援及び展示ほの設置により、地域ブランド化や栽培体系確立を支援

2 新規生産者の確保

- 新規部会員の確保を図るため、広報誌による周知と推進品目説明会を開催し、既存生産者へ補完品目として提案
- 就農希望者に対しては、就農相談での新規品目提案を実施
- 新規部会員確保後、栽培講習会や現地検討会、個別指導により、栽培技術の向上と定着を支援
- 新規就農者と大規模生産者に対して調製作業を省力化できるVFへの出荷を提案
- 直売所出荷者に対して栽培講習会を開催

(3) 活動の成果

1 特産品目等の育成

成果目標	基準 (R4)	目標 (R7)	実績 (R7)
特産品目数 (地域ブランド、新しい栽培体系)	0	3	4

2 新規生産者の確保

成果目標	基準 (R4)	目標 (R7)	実績 (R7)
J A 新規部会員数	2	23	24
V F 新規出荷者数	2	24	25
直売所新規出荷者数	23	78	105

○外部評価者からの評価・意見・提案

項目	評価・意見・提案
課題設定	・多様な担い手(生産者)を掘り起こし、育成するため、直売所出荷者もターゲットにした点が高く評価されると考えられた。 ・課題設定、目標設定、目標に至るプロセスのいずれも明確で、地域の農業の将来につながる取り組みと評価できる。 ・多様な農業が展開されていることから、特長があまりない地域ということで、方向性については問題ないと思う。ただ、全国でブランドは乱立し、その中で生き残っていくには、大きな特長が必要かと思われる。
活動体制	・2JA、直売所、ふくれんVFとの連携体制が効果的と評価されます。 ・関係機関との連携も綿密で一丸となって進んでいく体制と評価できる。
活動内容	・部会加入により交流、指導を受けやすく環境づくりの形成ができています。 ・「ブランド化」に絞ったアプローチは的確。ブランド化を進めるプロセスも具体的に評価できる。発表を聞いていると、いきいきとした農業現場の姿が見えてくるようだった。 ・VFの活用推進は大規模農家の助けになっていると思う。
成果	・直売所の位置づけ、第三者経営継承など、他への波及・応用を進めていただきたい。 ・取組経営体が増えるに対応が難しいと思われるが頑張ってください。

○その他の意見

農家が「わくわく」する取り組みを今後も展開していただきたい。

新規就農者の取組みは非常に評価できる。ブランド化にあたっては、今後、販売戦略を考慮し、魅力あるブランドの構築を行っていただきたい。

立体的な支援を構築されていることが、大変な強みになっていると考えました。